

水害発生

誰も取り残さず早期避難するために

アラカバ
DISASTER
PREVENTION

自治体のエリアを超えて、みんなで学びあいましょう!

第2回

荒川流域防災住民ネットワーク2022

～わが町から隣町へ、助け合いの輪を～

11月20日(日)
10:00～16:15



2019年の台風19号
いつもの荒川が
こんなことに..



まず地元で
学びあい!



荒川流域防災住民
ネットワーク
2021

会場

板橋区立舟渡小学校 体育館

(板橋区舟渡3-6-15 荒川決壊時、最大7m浸水の可能性あり)

日時

11月20日(日) 10:00～16:15 (受付9:30～)

募集

会場参加150名(先着) ZOOM参加(午前中配信・午後の分科会は⑤のみ)
会場参加費 500円(資料代) ※当日集金します
持ち物 上履き・昼食・筆記用具

午前の部

開会映像「荒川上流から下流まで(仮)」
大東文化大学防災サークル「ステラ」制作

トークセッション「被災体験を共有し、早期避難の実現へ向けて学ぼう」

・加藤孝明氏(東京大学生産技術研究所教授/東京大学社会科学研究所特任教授)

・金藤純子氏(EnPal 代表取締役/2018年7月「西日本豪雨」で被災)

・千代田美紀氏(「て to て」代表/2019年10月「令和元年東日本台風」で被災)

活動報告 舟渡町会の取り組み 舟渡支部支部長 植草正勝氏

(休憩)

会場展示 (予定): パネル展示 (SDGs 学習/自治体や企業の取り組み事例)、防災関連製品など

午後の部

朗読劇 「てるのあめ」

分科会

①要援護者の名簿の運用を改善し、早期避難を実現!

②あなたの街の防災進んでいますか? 各エリア地区防災計画の現状を共有

③要援護者の課題～STEP えどがわの事前広域避難訓練に学ぶ

④外国にルーツがある人たちの現状を考える。居住実態や自治体・民間の支援は

⑤それぞれの不安(ペット・乳幼児がいるなど)をまずは共有しましょう。

⑥楽しく体感&シミュレーションで水害を学ぼう!

パネルディスカッション(コーディネーター: 帝京大学教授 山本秀樹氏、総括: 加藤孝明氏(前掲))

・分科会のまとめと共有 ・参加者からの感想や発言 ・荒川流域2023へ向けて



(JR埼京線「浮間舟渡駅」徒歩13分)
(都営三田線「蓮根駅」徒歩15分)
(国際興業バス「舟渡小学校前」すぐ)

○主催: 第2回荒川流域防災住民ネットワーク実行委員会

○共催: SDGs いたばしネットワーク/ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし
みんなのたすけあいセンターいたばし/まちの学校舟渡

○後援: 国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所/東京都/東京都社会福祉協議会/板橋区/板橋区社会福祉協議会/板橋区医師会/東京都北区医師会
(申請) 東京消防庁志村消防署/東京災害ボランティアネットワーク/日本災害医療薬剤師学会/日本公民館学会/森林を活かす荒川流域自治体議員勉強会

申し込み方法

QRコードを読み取り内容を入力の上で送信ください。または下記①～⑧の内容をご記入の上メールまたはFAXでお申し込みください。

11/20に(会場・ZOOM)参加申し込みます。

①氏名 ②メールアドレス ③住所 ④電話番号 ⑤所属 ⑥第1希望分科会 ⑦第2希望分科会 ⑧その他連絡事項
(ZOOM参加の場合は⑤分科会に参加する、参加しないをご記入ください。)

申し込み先

SDGs いたばしネットワーク 申込締切日: 11月15日(火)

メール: sdbg-itabashi@mbr.nifty.com FAX: 03-5943-1888



参加申し込みは
こちらから

【あいさつ】

荒川流域防災住民ネットワークは、2019年の台風19号被害を契機に始まった気候変動時代の新しい地域活動です。昨年11/21に110名の参加を得て第1回会議を開催しました。今年11月の第2回会議に向け、実行委員会で話し合いながら見えてきたテーマは「誰も取り残さない早期避難の実現」。「要援護者名簿」「地区防災計画や個別避難計画」「福祉避難所」「在宅避難」など、具体的な課題も次々に出ています。

障がいがある人、生活状況や居住環境が厳しい人...早期避難が必要と分かっているにもかかわらず、現実には高いハードルがあります。自分の判断だけでは動けない人も多いことでしょう。逆に、支援や資源を提供できる人もいます。

災害対応に大事だと言われる「自助・共助・公助」について、私たちはこう考えました。

- ・自助：当事者が「助けが必要です!」と声をあげる
- ・共助：その声に応じて「私たちにできることをやろう」と動ける町づくり
- ・公助：自助と共助をシステムと制度で支え、継続していくこと

荒川流域の住民力をこの会議でつなげながら、みんなの力で本当の自助・共助・公助をつくっていきたく思います。ぜひお出かけください。

【トークセッション登壇者ご紹介】



かとう たかあき
加藤 孝明氏

東京大学生産技術研究所教授／東京大学社会科学研究所特任教授
東京大学工学部都市工学科卒業。同大学院工学系研究科修士課程修了。博士（工学）。
「防災【も】まちづくり」を提唱し、防災を主軸とする総合的なまちづくりに実践的に取り組み、各地で地域づくりの先駆的なモデルの構築を試みている。



かねとう じゅんこ
金藤 純子氏

EnPal代表取締役、防災士、SC経営士。神戸大学法学部卒。1986年JTB入社。営業本部情報企画室、マーケティング室主任研究員を経て、1999年リゾームにパート入社。2007年より専務取締役。流通小売業、商業施設の顧客データ分析(CRM)、商業施設の退店動向の分析を担当。2018年7月西日本豪雨被災で、倉敷市真備町の実家と自宅2軒が全壊、被災をきっかけにボランティアを開始。地域社会と調和し持続的な発展を目指す法人、個人とともに、被災地から見えるまちづくりの根本的な課題、防災啓もう活動に取り組んでいる。



ちよだ みき
千代田 美紀氏

埼玉県東松山市在。2019年10月に「令和元年東日本台風」で自宅が床上浸水被害。現在は、任意団体「てとて」を設立し東松山市を中心に各種イベントを企画。被災直後から地域の復旧・復興に携わり、学生を交えた写真洗浄作業や被災体験の講話などを主催。被災体験から、平時からの人のつながりの大切さと、災害時のボランティアについて、多くの人に知ってもらおうことを目的に「てとて」を設立。現在は、被災した自宅の一部を地域の交流を生み出すカフェにするべく、家族や地域の方々と協力して作業を実施中。

【協賛団体】 昨年の団体

ワーカーズコープ
社会連帯 TOKYO
いたばし総合ボランティアセンター
いたばし災害ボランティア
板橋区介護サービス全事業所連絡会

板橋区町会連合会高島平支部
高島平地区民生・児童委員協議会
赤塚新町町会
常盤台三丁目町会
清水町睦町会
コーシャハイム向原自治会

【参加団体】 (8月31日現在)

大東文化大学公認防災サークルステラ
特定非営利活動法人エコ・コミュニケーションセンター
特定非営利活動法人東京都北区市民活動推進機構
北区肢体不自由児者父母の会
自立生活センター・北
呼ネット(人工呼吸器ユーザーネット)
NPO 法人あらかわ学会
葛飾区肢体不自由児者父母の会
特定非営利活動法人ア!安全・快適街づくり
自立生活センター STEP えどがわ
(江戸川まちづくり協議会)
NPO 支援技術開発機構
(一社)協働型災害訓練
彩の国防災会議
帝京大学
特定非営利活動法人みんなのセンターおむすび
板橋区高次脳機能障がい者家族の会
中途障害者と家族の会「のびるの会」
特定非営利活動法人自立生活センター板橋
社会福祉法人国際視覚障害者援護協会
特定非営利活動法人板橋区ともに生きる福祉連絡会
板橋盲ろう者の会
板橋区発達障害児者の会(1Jの会)
板橋区ダウン症児・者親の会(ほほえみの会)
特定非営利活動法人A.P.F.S
高島平二丁目地 助け合いの会
板橋区重症心身障害児者を守る会(そらまめ)
高島平介護センター
特定非営利活動法人ほっと
高島平おとしより相談センター
舟渡おとしより相談センター
三園おとしより相談センター
たすけあいセンター高島平

SDGs まちの学校 高島平
高齢者サロン すずめのお宿
ベストフレンド
おたがいさまネットワーク
板橋区手をつなぐ親の会
板橋区肢体不自由児者父母の会
板橋福祉のまちをつくろう会
蓮根まちの学校
赤塚まちの学校
特定非営利活動法人いた・エコ・ネット
いたばし災害支援ネットワーク
板橋災害に備える会

(調整中)
足立区ボランティアセンター
立正大学